



大仙ハウスめぐり



ー 地元の方に愛されるバラ園ー

今回は島根県益田市の大畑バラ園を紹介します。

大畑バラ園では古くからバラの生産をされており、中国・山陰地域のバラ生産者の中で広く名前が知られています。会長の大畑健二さんは、中学を卒業してすぐの頃からバラ栽培に携わられていたそうです。その経験を活かし、ハウス建設時にはご自身も鉄骨部の図面作成に参加される等、現場で練り上げられた『バラ栽培に適した環境作り』を大事にしています。現在では、2016年に建て替えさせて頂いた弊社のハウスを含め、約2,800㎡の敷地を運営されています。

物件プロフィール

- ・大畑バラ園
- ・作物：バラ
- ・2016年5月に大仙屋根型フッ素フィルムハウス1,248㎡を建設



また、社長の大畑満治さんは健二さんの豊かな経験を活かしつつ、新たな設備や資材の情報の収集にも取り組まれ、新たな品種『エクレール』等の栽培に挑戦される等、常に強い情熱を持ってバラを栽培しています。

そんな大畑バラ園の選果場には地元の方がバラを買うために直接訪れ、大畑バラ園で栽培されたバラが益田市に根付き、愛されているのが伝わってきます。現在も老舗の生産者として第一線で活躍されており、「今は景気が良いとは言えないが、今後もバラ業界に尽力していきたい」と話されていました。

<担当営業のエピソード>

最初は大仙に入社して間もない頃、お伺いさせていただきました。契約に至るまでの約半年間ほぼ1週間に1回訪問し、打ち合わせを重ねました。契約して頂くときに会長の健二さんより『よく半年でここまで覚えたな』と言われた一言は忘れられず、今も営業活動の原動力となっています。



屋根型フッ素フィルムハウス



バラの栽培風景



外気温が25℃を超えるようになり、夏らしさを感じる程暖かくなってきました。

千葉研究農場では4月末あたりから収穫量が急激に増えてきています。例年のことではありますが、この時期は、すでに収穫が行われている春作の後半戦と春・夏作の収穫の始まりが重なります。そのため春作と春・夏作合わせて4区画での収穫となり、1日の収穫量が400 kgを超えるようになります。その中でも特に4月26日の収量はなんと970.7 kgもあり、ここ3年間で一番の収量を記録しました。4区画に跨る収穫は5月10日までと、今年は例年にも増して忙しくもにぎやかなゴールデンウィークとなりました。



収穫が始まった春・夏作区画



4月26日に収穫したトマトの一部



アンテナ掲示板



令和3年4月15日付の園芸学会誌「園芸学研究」で報告された「トマト栽培における培養液濃度、品種、栽培方式が葉面抵抗に及ぼす影響」についてご紹介します。

作物栽培における給液管理法について、より安定した生産を行うため、作物が要求する養水分を経時的に把握することが求められるようになってきています。こちらの研究では一段栽培のトマトを用いて、培養液のEC、固形培地と湛液水耕における違い、固形培地量、品種などが植物体の葉面抵抗と蒸散量に及ぼす影響を調べ、トマトの蒸散速度の推定や最適な給液量の決定について検討しています。

培養液のECを変化させる実験では、ECが高いほど葉面抵抗が高くなり、蒸散速度が低下したそうです。葉面抵抗はECの影響を受けるほか、栽培品種によって異なり、時刻によっても変動するため、トマトにおける蒸散速度を推定する際には、それぞれの条件を考慮することでより正確に推定できる可能性が示唆されていました。

本文中でも触れられていますが、特に高糖度トマトの栽培では水・塩ストレスを利用するため、蒸散速度についてより正確に把握することが重要になります。今後、蒸散速度を推定する技術がさらに発達し、今以上に様々な作物でいろいろな栽培方法や灌水管理が試され、面白い特徴を持った作物が増えていくのかな、と思うとこれからの進化がとても楽しみになりました。



【引用文献】

澤村武・切岩祥和・都丈志・狩野敦・鈴木克己（2021）トマト栽培における培養液濃度、品種、栽培方式が葉面抵抗に及ぼす影響
園芸学研究、第20巻 第2号、179ページ

ランナー vol.43 2021年5月発行 掲載記事の無断転載を禁じます。

発行所 株式会社 大仙 温室事業部

〒440-8521 愛知県豊橋市下地町字柳目8

[TEL]0532-54-6521 [FAX]0532-57-1751 [E-mail]mail.magazine@daisen.co.jp [登録]



※ メールマガジン配信希望の方は、右のQRコードよりご登録いただくか、上記のE-mailアドレスより空メールの送信をお願いいたします。